

令和3年度第2回青森市社会教育委員会議定例会議 会議概要

- 1 日時： 令和3年10月26日（火）13時30分～14時45分
- 2 会場： 青森市教育研修センター 5階 大研修室
- 3 出席者： 棟方梢議長、石澤千鶴子委員、小笠原秀樹委員、川村隆義委員、高橋隆子委員、
滝口小百合委員、常田清彦委員、蒔苗礼子委員、今別浩司委員、米田学委員
事務局： 教育部長 小野正貴、教育次長 大久保綾子
文化学習活動推進課長 : 杉山 潔
参事・文化財課長事務取扱 : 葛西俊一
中央市民センター館長 : 坂牛 裕
市民図書館長 : 伊藤慶尚
指導課長 : 角田 毅
浪岡教育課長 : 石村 淳

4 次第

- (1) 開会
- (2) 議題等
 - ①令和4年度社会教育関係団体に対する補助金の交付について(意見聴取)
 - ②令和3年度社会教育関係事業(教育委員会所管)の検証及び今後の取組方針(案)について
 - ③成年年齢引き下げに伴う成人式の対応について
- (3) その他
- (4) 閉会

5 主な質疑応答、意見等

(2) ①令和4年度社会教育関係団体に対する補助金の交付について(意見聴取)

・浪岡教育課所管事業について、令和2年度補助金額に比べ、令和3年度事業費が大きく変わっているが、令和4年度もそのようになるのか。コロナの影響もあり、たまたま令和2年度が低かっただけなのか。

⇒令和2年度はコロナの影響等で事業ができず、補助金額が減っている。記載の令和3年度事業費は予算額であり、事業が中止になったものもあるため、結果的には補助金額も減る予定である。令和4年度についてはこれまでの範囲内で予算要求している。

(2) ②令和3年度社会教育関係事業(教育委員会所管)の検証及び今後の取組方針(案)について

・コロナの影響でできなかった事業が多くあるが、来年度は具体的にどのように事業を実施していくのか。人と人がリアルで繋がってこそ社会教育だと思うので、コロナでいつまでも中止にするのは不安がある。

⇒緊急事態宣言も解除され、コロナ前の状況に戻す方向で取り組みたいと考えている。国や県などの方針もあるので、できない部分もあるが、感染対策をとりつつ、少しずつ前の状態に戻したい。

<コミュニティ・スクール>

・次の研修会を土曜日に設定したが、先生たちは土曜日にも出席するのは難しいとのこと。先生の出席状況が分かれば教えてほしい。

⇒これまで平日に設定していたが、平日だとなかなか来られないという方もいる上、講師の都合もあり、今回は土曜日とした。スペースの都合で1学区から3~5人で出席をお願いしているところである。最終的な出席状況はまだわからないが、今後も曜日の設定には工夫しながら考えていきたい。

<生涯学習支援事業>

・市民向け講座を企画するにあたり、こういった講座にニーズがあるのか、テーマ設定やターゲットを整理していく必要があるのではないか。

・パソコン講座に関して、幅広い年代でニーズがあると思われるので、意識してほしい。

<いじめ防止対策総合推進事業>

・いじめの件数が増えているというのを聞いたが、それは学校で細かなことでもいじめとして報告しているため、その結果、大きいじめに繋がる前に解決できているということであり、良い状況になっていると思う。他県では学校で使っているクロームブックを使ったいじめに繋がりそうな案件もあったそうだ。

⇒国の調査では9割以上がいじめの加害・被害の経験があるというデータがあり、子どもたちの生活の中にいじめは起こりうるものだという前提がある。その中で先生がどの行為を以ていじめと認知するかが重要であり、いじめ件数の多寡ではなく、隠れているいじめを見逃さない姿勢が根付いてきているものとする。これにも学校格差があるため、厳しい姿勢を以て対応していかなければならない。いじめの被害側の気持ちを汲み取り、どのような行為が原因になったのかを決める認知の仕方が大事になってくると思い、保護者、地域、学校と一体となって進めていきたい。

新聞報道等でも話題となっており、チャット機能については授業等以外では使わないということ的前提とし、子ども、保護者、学校で共通理解を図っている。万が一不適切な使用があれば市でも対応していくことを保護者へ通知しており、現段階においていじめ事案に繋がるような使用は見られていないと把握している。また、これまで子どもからの相談は少なかったが、クロームブックを使い始めてから子どもからの相談が増えている。特に小学校高学年から多く、相談ツールとしても広まっていると考える。今後も相談内容の重要性、緊急性を踏まえ、これまで通り必要に応じて学校に情報提供しながら対応していく。

・大人と子どもをつなぐハブの役割として、市内の大学生を活用してはどうか。大人に言いづらいことでも、年の近い大学生であれば話しやすいということも考えられる。

(2) ③成年年齢引き下げに伴う成人式の対応について

・兄弟同士で成人式を一緒にはやりたくないという声を聞いた。20歳になってから成人式

をやってほしいという意見が多く、20歳での成人式開催で良かった。

- ・ 飲酒喫煙など正式に人生の節目に当たるほか、大学や社会で一定の経験を経て成人としての自覚を持つ時期に当たり、一度故郷を離れた人たちも戻ってきて次のステップに繋がる勇気をもらえるのではないかと思うので、20歳でやるのが良い。
- ・ 学校から各学校で成人式をやるのは大変だという話を聞いている。今年だけならいいが、それ以降は今まで通りにやれたらよいと思う。
⇒来年度以降については今年度の結果を踏まえて検討するため、現時点ではまだ決まっていない。
- ・ コロナ対策ということで各学校での分散開催は良いし、子どもたちにも思い出深いものになると思っているが、教員が動員され、学校の負担になるのではと思う。
⇒各会場で新成人による実行委員会を組織し、準備することとしている。ただ、委員を集めるのが大変という声はあるため、結果として学校にも協力をお願いすることになるとしている。それらも含め、来年度以降どういう形が良いか考えていく。